

理事長にインタビュー

理事長

なか はら たつ ろう
中原 達郎 先生

「好きな仕事ができ、さらに患者様から感謝していただけるというのは天職でしかない」

「ドルフィンデンタルクリニック」は、インプラント治療分野で長年のキャリアを誇る中原達郎先生が開院された歯科クリニック。中原先生はインプラント治療だけではなく、歯周病や噛み合わせにも精通する歯科医で、口腔内を総合的に診察し、患者様に合った治療法を提案できる先生です。今回はそんな中原先生に気になるインプラントのことやクリニックのことなどについてお伺いしました。

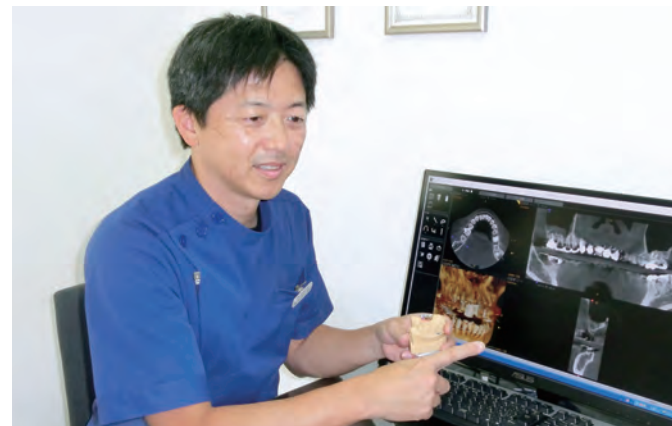
歯を残すためにインプラントを使うということもある

—— まずはいきなりですが、中原先生が考えるインプラントの最大のメリットとは何でしょうか？

それはもちろん、歯を失った方がインプラントによって噛めるようになり、食事が美味しく食べられるようになることです。

しかし、私は歯周病の専門医※でもありますので、歯を残すという観点から考えると、とても大切な役割があるのです。それは、インプラントを用いることによって、残せなかったような歯が残せることがとても多いと

※日本歯周病学会 歯周病専門医



いうことです。ぐらぐらの歯の隣にがっしりとしたインプラントの歯があると、噛む力をそこで支えてくれて弱った歯の負担が大きく減るのです。歯を残すためにインプラントを使うということもある、そのことを知ってほしいです。

—— 歯周病の専門医をされている中原先生ならではの視点ですね。では、実際にインプラントにされた方のお声はいかがでしょうか？

多くの歯を失った方にとっては、インプラントはまさに救世主のような存在だと思います。今までは食べられなかったものが食べられるようになるわけですから。それは本当に喜んでいただけます。

対照的に1〜2本程度のみ欠損にインプラント治療を受けられた患者様などは、その機能性、審美性に変大満足していただいています。

—— インプラントは「何となく怖い」というイメージを持つ方も多いと思います。実際はどうでしょうか？

カウンセリングをする前から、「インプラントは怖いからやりたくない」という声は多いですね。では、何に対し



て怖いとおっしゃられるかといえば、多くの患者様が言うのは「失敗して大変なことになる話を知人から聞かされて」というものがほとんどです。そのような場合、私の経験や他の症例から、失敗する確率はとても低いことをお伝えしています。CTを用いた事前診断で失敗のないように十分に準備ができることを説明し、インプラントの安全性についてご理解いただけるように努めています。

治療の成功は歯科医師の腕前だけではなく、**入念に治療計画を立てた上で、基礎に忠実に手術を行うことが、成功に最も近づける方法**だと信じています。

自分の親や身内の者に治療をするような気持ちで

—— ところで、中原先生は常に進化するインプラントの技術、知識をどのように習得されておられますか？

幸いなことに、インプラントと一緒に勉強した仲間がたくさんいます。彼らと一緒に学会に参加することはもちろんのこと、個人的にもセミナーに常に参加して知識・技術の向上を図っています。

現在、インプラント治療はインプラントの学会だけでなく、私の所属する歯周病学会や補綴歯科学会でも盛んに取り上げられていますから、それだけインプラントと他の専門分野との連携が問われるようになってきたといえるでしょう。これからはインプラントだけで言えば良いというのではなく、臨床医として幅広い専門知識と技術を身につけておかねばならないと考えます。

—— 患者様とコミュニケーションをとる上で心掛けている点は？

初めてインプラント治療を受けようという患者様は、皆さん、不安をもっています。まずはリラックス頂けるようにスタッフ全員、笑顔で接するように心掛けています。それから、これは当たり前ですが、レントゲン写真やCT

の画像を一緒に見ながら、現状を出来る限り詳しく説明してさしあげることです。患者様にとって、自分の体の状態をよく理解してくれ、それに適した治療方法を親身になって考えてくれる歯科医師、そして医院なら信頼してくださるのではないのでしょうか。

自分の親や身内の者に治療をするような気持ちで、どの患者様にも接しています。

—— 患者様にとって、とても心強いお言葉ですね。それでは中原先生、ずばり！クリニックの強みは？

歯周病専門医※でもあるということです。

インプラント治療を受ける方は、歯を失っている方です。多くの先生は、目の前の患者様の歯の抜けた状態だけを見てインプラントを考えがちですが、本来まず考えなくてはいけないのは、歯がなくなってしまった理由です。それがわかっていなければ、インプラントも同じように失う結果になりかねません。歯周病医はその点、きちんと対応することができます。

また、私は大学院では補綴科という歯にかぶせる冠やブリッジを専門とする科で勉強していましたから、材料学や噛み合わせにも精通しています。

素晴らしいインプラントにも弱点があります。**私はインプラントの弱点である「感染（歯周病）」と「力（補綴）」を学んでいるので、様々な状況に適切に対応できます。**それもまた当院で安心してインプラントをおすすめできるポイントだと思います。

※日本歯周病学会 歯周病専門医

—— インプラント治療には他の関連分野の知識も必要ということですね。では、最後によろしいですか…。先生にとってこの仕事の喜びとは何でしょうか？

昔から手先を使った作業が好きで、几帳面なところもあり、理論で物事を整理するタイプでした。調べて考えて、精密に治療を行うことが楽しくて仕方ありません。好きな仕事ができ、さらに患者様から感謝していただけるというのは天職でしかないと思います。

また私を助けてくれるスタッフのことも忘れてはいけません。一緒にいる時間も長いですし、家族同然に思っています。彼女たちの成長を見るのも楽しいですし、信頼できる仲間と一緒に仕事ができるのも嬉しいですね。

この仕事には患者様、スタッフ、私の3つの柱があり、そのどれもがWin-Win-Winの関係にあれば、みんなが喜ぶことになります。私の目指すところはそこかなと思っています。